

中部地区の社会教育をつなぐ、ひろげる

わくわく中部



中部教育局社会教育担当だより 平成30年8月7日発行

8月の主な行事予定

8月24日(金) 学校支援ボランティア研修会(伯耆しあわせの郷)
8月27日(月) 全県社会教育関係者研修会(まなびタウンとうはく)



第2回中部地区人権教育懇談会(P T A対象)開催!

平成30年7月28日(土)に、北条農村環境改善センターで小学校、中学校、高等学校、特別支援学校のP T Aを対象とした中部地区人権教育懇談会を開催しました。県の事業で取り組んでいる人権教育プログラムを体験していただき、いじめの未然防止のために家庭で子どもたちどのように接していけばよいのかを考えていきました。今回は自尊感情を高めることをテーマとしたプログラムですが、この他にも仲間づくりや人間関係作りなどをテーマとしたプログラムがあります。保護者会やP T A 研修会等で活用していただきたいと思います。

人権教育プログラム体験

「子どもの気持ちに向き合う上で大切にしたいこと

～いじめをさせない子どもを育てる2つの自信～

ファシリテータ 人権教育プログラム作成委員



1 アイスブレイク

・わが子が好きな食べ物を紹介しながら、自己紹介し、心をほぐす。

2 子どもの気持ちにかかわる体験の交流する。

・学習発表会の劇でなりたい役になれなくて、落ち込んで帰ってきた。
・楽しみにしていた野球観戦が雨のために中止になり、その場で泣き崩れた。

3 グループ内で出された体験談などからみんなで考えたいことを決め、他のグループに意見をもらったり、対応策を考えてもらったりする。

・放っておくのではなく、子どもの話を聞き、思いを受け止める。
・代替策を提示し、気持ちを切り替えさせる。
・不安な気持ちを軽くするために、ハグをしながら声を掛ける。

4 他のグループのワークシートを見て回り、「なるほど!」と思う意見にシールを貼る。

5 まとめ (ファシリテータ)

・いじめをしない子どもを育てるには、家庭の中での自信と学校や社会の中で成す自信を育むことが大切である。
・あるがままの子どもの姿を親が受け止めることで子どもは安心感をもつ。



参加者からたくさん
の意見が出ましたよ。



【参加者の感想より】

- 自己紹介では、多少の緊張がありましたが、話が進むにつれ活発に意見が出て、表情も緩み、話ができるようになりました。いろいろな人の意見が聞けて有意義でした。
- 人権教育プログラムをとおして改めて親子の関係性の大切さを考える機会となりました。親としての役目を果たし、子どもが一人で悩むことなく、何でも言い合える親子関係を築いていけたらと思いました。
- いろいろな意見や思いが聞けてとても勉強になりました。家庭でも試してみようと思うものもあり、参加できて良かったです。



平成30年度全県社会教育関係者研修会の

講義に注目!

社会教育主事や
司書、学芸員を養成する講
演でもおなじみの馬場祐次朗さん
です。お楽しみに。

ちゅうぶくん ～夏の思い出～



開催について

昨年度の優良公民館表彰受賞館の実践発表があるよ。事業内容・方法等に工夫を凝らし、地域住民の学習活動に大きく貢献している公民館なので参考になるよ。



- ・日 時 平成30年8月27日(月)
10:15~15:30
- ・場 所 まなびタウンとうはく
- ・主 催 鳥取県社会教育協議会
- ・共 催 鳥取県教育委員会
- ・対象者 公民館長・公民館主事等、市町村社会教育担当課の職員

・内 容

【実践発表】

- 平成29年度優良公民館文部科学大臣表彰受賞館
 - 「住民と歩む公民館活動」
鳥取市立日置地区公民館
 - 「コスモスロードの軌跡」
岩美町浦富地区公民館

【講義・演習】

「これからの公民館に求められるもの」(仮題)
講師：徳島大学大学開放実践センター
センター長・教授 馬場祐次朗 氏

【あとがき】

呉市の小学校に災害支援に行ってきました。主な活動内容は心のケアが必要な児童・生徒に関する教職員との情報共有・助言の場を設けることです。学校周辺は流出した土砂が山のように積まれていたり、巨岩が転がっていたりと被害の大きさが伺えました。被災した子どもたちは、災害が起きた日の様子が頭から離れず、シャワーや水道の蛇口から流れる水の音が怖い、夜眠れないなどの様々な反応を表しています。いまだ2学期の学校再開の目処が立っていない中、安心して過ごせる学校や地域になることを願います。

中部教育局 社会教育担当 西村 信彦

電話 0858-23-3253

ファクシミリ 0858-23-5203

電子メール nishimuran@pref.tottori.lg.jp